

# 市公連だより

第27号  
 発行 熊谷市公民館連合会  
 編集 熊谷市長山幸  
 事務局 熊谷市公民館中央  
 電話 523-0895

## 公民館紹介

地域の皆様に愛される  
 公民館を目指して  
 大幡公民館長

清水 裕史

大幡は、柿沼・原島・代・新島の4地区からなる市のほぼ中央に位置する住民一万人余りの地域です。昭和四十年代半ばに新興住宅の建設ラッシュが起こり、熊谷バイパスをはさんで南側は住宅地、北側は田園地帯となっています。大幡公民館は昭和四十八年に建設された鉄骨造2階建てのホール、和室、会議室、事務室からなる施設です。当館では学習サークルの活動が活発で、二十二のサークルが定期的かつ熱心に活動しています。参加者の大多数が女性の公民館もある中、囲碁や写真、水墨画、陶芸、吹き矢など男性が多数参加しているサークルも多く活動しています。学習活動としては「さわや

か学級」「まなびや教室」の名称で、手芸や民踊、生け花、グラウンドゴルフ大会、人権学習など様々な講座や講演会などを実施しています。

また公民館が主催する地域の3大イベントとして「敬老会」「運動会」「作品展」があげられます。中でも敬老会は年々対象者が増加し、地域の七十五歳以上の方が二千人を超える日も近く、現状通りの式典開催が困難となることが予想されます。今までは敬老会開催の通知を自治会役員の方や民生委員さんに対象者のご自宅まで配布していただけですが、今年度から郵送でのご案内に変更することとしました。市からいただく慶祝品の配布方法を各戸、様々な見直しを行い、できるだけ開催を続けたいと考えております。運動会も保育園児から長寿会の方々まで延べ千人の住民が秋の1日を楽しんでいます。作品展は学習サークルの皆様が作った作品を展

示し、地域の方々にお披露目する場として賑わっています。これからも地域の皆様に愛される公民館をめざし事業に取り組んでいきます。



運動会

## 公民館の沿革

### 地域住民の交流

太井公民館長

篠崎 正人

太井公民館は、熊谷市の東部に位置し、太井地区及び佐谷田東部地区の一部を地域として住民約七百九十人余りです。地区の中央を国道17号が走り、南部にJR高崎線及び北部に新幹線が縦断し、JR行田駅まで徒歩20分と、都心

への通勤・通学等の地理的條件に恵まれ、沿線からチョット奥に入ればのどかな田園地帯です。

太井地区は、昭和28年町村合併促進法が施行され、昭和30年9月30日に北埼玉郡太井村が廃村3分割され、2市1町村へとそれぞれ合併し、太井地区は熊谷市へ編入合併、廃村により財産分割が行われ、旧太井村役場庁舎が熊谷市へ帰属されたことや地区住民の要望等により、太井地区内に旧庁舎を移築し、(地域のコミュニティ施設)太井公民館として多くの方々にご利用されてきました。(当時は館有り公民館)

しかしながら、昭和55年公民館及び消防分団施設の老朽化等により双方が取り壊され、現在新築された消防分団施設の一部を太井公民館として借用しています。

現在は館なし公民館として無人で、電話も無ければ〇〇も無しです。少ない予算の中で、最大限のサービスクができるよう努力をしています。

館の使用の申請及び鍵の貸出しは、公民館に隣接する商店の店主が、ボランティアにて対応してくれています。

公民館の主な学級講座としては、料理教室、ひょうたんアート講座、手芸十支講座、輪投げ講座などの講座を、毎年交互に変更し、実施しているところだ。

昨年、新講座として小学生を対象としたキッズ講座。ペットボトルロケット作りと飛行競争、子供19名・保護者7名の参加及び公民館役員8名の協力を得て実施し、大変喜ばれました。今年も引き続き開催に向けて準備を進めて行きます。

また大会等の事業として、敬老会、グラウンドゴルフ大会、太井・久下地区体育祭、久下長土手まつり参加、防災訓練共催等を実施しています。

今後共、地域の皆様の交流の場となるよう頑張っていきたいと考えています。



ペットボトルロケット作り

《「暑くない」そんな人ほど 熱中症》

# 社会の変化に対応する

## 公民館を目指して

熊谷市公民館連合会会長 山川 幸男



会長に就任した山川です。五月二十四日の総会において退任されました角田前会長におかれましては、四年という長い歳月にわたり、本会の組織活性化に邁進されました。後任としての職責の重大さを痛感しておりますが、会員皆様のご協力をいただき、鋭意努力していく所存でございますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、五月から「令和」となり、社会も日々変化しております。このような社会情勢においても、公民館の果たす役割である生涯学習の拠点であることに關しては一切変化

公共施設アセットマネジメントで、施設の再編が叫ばれる中、公民館も例外ではありません。日本人の人口は二十年をピークに減少に転じる一方で、高齢化率は増加傾向を続ける見込みです。過去に整備された公共施設の老朽化対策が課題になっていきますが、長期的視点から計画的な対策を執行することが求められています。さらに、市町村における維持管理費が、二千四十年頃には現在の約二倍になることが想定されている今日、公民館も効率的な運営を行う必要があります。

終わりに、市民の声に広く耳を傾け、地域住民の真の二

ーズを汲み取り、公民館活動に反映していくように努めたいと考えております。一人でも多くの方が、各行事に参加され、充実した人生を歩まれますようお願い申し上げます。任のあいさつといたします

# 地域づくりの公民館

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃



トワーク作りに多大なる貢献を頂いております。

熊谷市公民館連合会の皆様には、日頃から公民館活動に御尽力いただき、誠にありがとうございます。

各公民館には、生涯学習・社会教育の拠点として、時代と共に多様化する地域住民の要請に応えた様々な創意工夫を積み上げ、地域活性化やネッ



ラグビーワールドカップ2019

今年五月からは新元号の「令和」が始まり、公民館連合会では、新たに山川会長が就任されました。新会長の下でさらなる地域活動、生涯学習の拠点として公民館活動が図られるものと確信をいたしております。また昨年度をもつて退任されました角田前会長には、公民館長や学習講座講師としても、本市生涯学習の発展に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて本年九月からラグビーワールドカップ二〇一九が開催されます。熊谷市公民館連合会には活動の重点目標として、本市の開催成功に向けた啓発活動を一昨年より御協力頂いております。地元の盛り上がりこそが成功への道と、引き続き御協力をお願いいたします。

公民館の役割は地域の色々な世代の人が集まり、互いに学び合う機会と時間を共有し、それぞれを結ぶネットワーク作りをするいわば「地域作り」の大切な拠点と考えております。

今後益々少子高齢化が進む中、その役割がさらに増すことが想定されますが、今までと変わらない御尽力をお願いいたします。

末筆ですが、公民館連合会の益々の発展と、会員の皆様への御健勝を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

# 新任館長あいさつ

## 肥塚公民館長

風間艶子



この度、四月一日付けで、肥塚公民館長に就任いたしました風間艶子と申します。

肥塚公民館では、肥塚地区の身近な学習拠点として、三十を超えるスポーツ、文化活動等のサークルがあり、多くの人達と一緒に育まれた活発な交流が行われています。

公民館は、地域の人々が生活の中で気軽に集い、共に学び、交流を深めるための拠点施設として中心的な役割を担って参りました。今後更に、自治会や各種団体の皆様と共に協力を頂きながら、社会の要請に対応した取組や、全世代の皆様が心が満たされるような活動を展開して行きたいと考えています。

そして、明るい笑い声や、家族と共に過ごす時間のようになんとか、いこいの公民館になるよう微力ではありますが、精一杯努めて参ります。皆様のご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## 荒川公民館長

大澤 勇



四月から荒川公民館に勤務して大澤と申します。見晴町に住んで六十数年。これまで毎朝、公民館前を自転車で向かう通勤者で、うちわ祭り会議出席などで多少の関わり持つ程度でしたが、このような立場で関わるとは夢にも思いませんでした。畑違いの仕事から転身し就任二カ月、私にとっては全てが新鮮な事ばかりです。

先ず小中学校の入学式から始まり、地域の各総会への出席、毎週月曜日九時から職員五名と三時間に及ぶ濃密な週ミーティング、共催事業のグラウンドゴルフ大会実施とプレー参加等々。また先日は地域代表者二十五名に出席頂いて公民館運営協議会という重要会議も経験しました。

公民館とは「地域づくり、人づくり、繋りづくり」の考えで運営される地域住民の場であると学びました。私自身三十年を越える少女少年サッカークラブや町内自治会の運営精神と同じと感しています。今の新鮮な感性を忘れる事なく荒川＆南小学校区のお役に立てれば幸いです。

## 大幡公民館長

清水裕史



拠点として、地域の皆様にご利用いただき、明るい笑い声が響く和やかな雰囲気施設の運営です。高齢者だけでなく、親・子・孫の三世代が集う場を提供し、生涯学習としてのスポーツや文化活動などを通じて地域コミュニティ作りの役割をはたしてきました。時代は平成から令和へと変わり、熊谷市公共施設アセツトマネジメント施設白書では、今後の公民館の運営管理について見直しが提言されています。新しい時代にふさわしい公民館活動と事業内容について、先進地の研究をおこたらず、微力ではありますが公民館の充実に努力したいと考えています。

今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 上石公民館長

瀧澤繁雄



公民館の運営に情熱を注ぎ、多くの功績を残し退任された角田光男前館長の後任という事で、その責任の重大さを日に日に身にかけております。なにぶん微力ではありますが、誠心誠意取り組んで参りますので、ご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

「変化は好機」、「チャレンジはチャンス」という言葉があります。時代の流れを敏感に受け止め、努力して参ります。公民館は社会教育法に規定されている社会教育機関です。公民館主催事業として、当館では「生き生き教室」を実施しております。地域の歴史、健康増進、つまみ細工、味噌づくり等、多彩な内容の講座を予定しております。又、公民館まつりを地域の皆さんと実施し、楽しい集会活動を展開していきたいと考えております。

魅力いっぱいの上石公民館が新たなチャレンジで地域に愛され、信頼される様、努めてまいります。

# 《 熱中症 未然に防ぐ ヒンヤリハット 》

# 退任館長あいさつ

前熊谷市市公連会長

前上石公民館長

角田 光男

各公民館の皆様、市中央公民館の皆様、熊谷の夏に負けずお仕事にご尽力のことと拝察致しております。

私、在任の折には沢山のご協力、ご教示、ご指導、ご支援を戴きました。お陰様で多くの世界を知ることができました。更に貴重な体験や得難い

「出会い」にも恵まれました。

それらを糧に改めてスタートすべく次のことを頭に描いたり取り組んだりしております。

○ゴミ部屋と化した和室の整理。(但し断捨離が難しい)

○書籍の整理。

①熊谷字の②読書会関連の紙料(資料)が減らせない。

○軽い運動とウォーキング。

○頭と口の体操。

○家周辺(用水、庭木、草花等手入れ)「除草、剪定等」

○ドライブや旅行の計画(倒

## 《炎天下 まちなかオアシス ひと休み》

れかな?)

○趣味、ライフワークの充実等ですが現在絵に描いた餅。

結びに、市長様、教育委員

会様、澤田、田中、森田中央

公民館の歴代館長様をはじめ

関係各位に感謝を、又、皆様

のご健勝を祈念し心からの挨拶と致します。

前荒川公民館長

能見 忠久

平成二十四年から、七年間市公連や荒川公民館の皆様に変化お世話になりました。

お陰様で、新規事業を実施

することができ、充実した公

民館活動を推進できました。

中でも「新荒川公民館二十五

周年記念式典」(現在の地に

新館ができて二十五年経過)

「公報あらかわ編集委員会

の発足」(職員が原稿から印

刷まで全てを行っていたが、

地域の団体や自治会からの選

出委員による編集ができた)

「公民館表彰規定を制定」

(公民館活動に永年、功労功

績のあった者を表彰する)

「公民館運営審議会から公

民館運営協議会へ」(住民の参加による運営や協議への意識改革を図る)

「新荒川公民館二十周年記

念事業の実施」(三十年の歩

みと実施事業のまとめ)

このような事が出来たのも

公民館スタッフの積極的な取り組みの賜ものである。改めて

スタッフに感謝です。

結びに、市公連並びに各公

民館の益々の発展を祈念し、

退任のあいさつとします。

前大幡公民館長

村田 勻

公民館は、幅広い世代の人達が集い交流できる生涯学習の場です。様々な公民館行事があります。併せて地域行事も多彩です。

短い間でしたが、「楽しく

元気な公民館活動」を通して

地域の交流の輪・協力の輪が

少しでも広がるよう、微力では

ありますが、努力して参りました。自ら協力を申し出て

くださった方やアドバイスを

してくださった方、行事の後

お礼を言いに見えた方など、

私にとって生涯の宝物といえ

る思い出がたくさんできました。ありがとうございました。

大幡公民館は、公民館行事

も行事数、参加者数とも多く、

地域行事も幅広く大規模です。

実行委員会の席で『できるこ

とを、できる範囲でお願いし

たい。皆さんの協力を合わせ

ると大きな力になる』ことを

話したことがあります。期待

したよりもずっと大きな力を

多くの皆さんから頂きました。

感動と、感謝の毎日でした。

本当に貴重な経験をさせて頂

きました。

ご協力を賜りました地域の

皆様、市公連・公民館関係者

の皆様に感謝申し上げます。併

せて今後のご発展とご活躍を心

より祈念申し上げます。

前肥塚公民館長

塚本 喜一郎

ついテレビを視てしまう時間が長くなっている気がする。かつては読めなかった力士の四股名も、最近読めるようになってきた。

美ノ海・翔猿・劍翔・

彩。十両勢、照強・

阿武咲・琴恵光・明生・阿炎

。幕内の若手も澁刺として生きがいい。一人ひとりが持ち味を発揮しながら好成绩を残している。

テレビ中継も今は前半に好

取組が多く、四時前にはテレ

ビ機数に陣取る様になった。

小兵力士が多いのも魅力で

ある。なかでも炎鵬の技の多

彩さ、切れ味には魅了される。

素早い身のこなし、思い切り

の良さ、大型力士の増えた大

相撲に新風を吹き込んでくれ

ている。

寄り切り・寄り倒し・押し

出し・押し倒し：と、決まり

手も熱戦の証だろう。その

分立会いの駆け引きも微妙に

なるのか、軍配が返ってから

の腰の割り、息の合わせ様も

相撲観戦の妙味のように思え

てきた。

「新風を吹き込む」と言うが

「新風」は吹き込むのではなく

内から自ずと生じるものでは

ないだろうか。

ご指導、ご支援いただいた

皆様に心より感謝いたします。

# 定期総合報告

去る五月二十四日、妻沼中央公民館において、令和元年度総会及び記念講演会が行なわれ、事業計画・予算・役員等が承認されました。

総会後の記念講演会では、めぬまグライダークラブ代表の金井修二氏を講師にお迎えし、「飛べ・グライダー」と題して、妻沼滑空場の活動が紹介され、皆様熱心に聴いていました。令和元年度役員

- 会長 山川幸男 (奈良)
- 副会長 吉野武治 (久下)
- 副会長 渡辺 正 (玉井)
- 副会長 戸井田光二 (長井)
- 第一ブロック長 河西昌美 (箱田)
- 第二ブロック長 前澤保雄 (星宮)
- 第三ブロック長 秋山宏之 (大麻生)
- 第四ブロック長 細川末廣 (桜木)
- 第五ブロック長 新井弘一 (大原)
- 第六ブロック長 荻野俊行 (秦)

- 監事 小沼博靖 (宮町)
- 監事 山岸保治 (大里)
- 相談役 森田安彦 (中央)
- 幹事 坂田健樹 (中央)
- 幹事 大泊宏田 (中央)
- 幹事 島田信秋 (中央)



市公連総会(記念講演)

また、大里地区公民館連合会の総会が、五月十六日、妻沼中央公民館で、埼玉県公民館連絡協議会の総会が、五月二十二日、行田市において開催されました。それぞれの総会で承認された事業計画・予算のもとで、公民館の振興に向けて取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

## 「未来を拓く人権尊重のまちづくり」

熊谷市教育委員会 社会教育課 茂木秀典

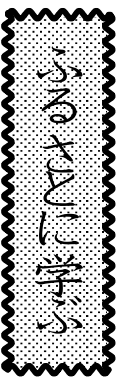
平成三十年五月に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律」、いわゆる改正バリアフリー法が成立しました。この法改正は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、すべての人が共生する社会の実現、全国のバリアフリー化を推進するために整備されました。高齢者や障害のある人を含めた共生社会の実現には、ハード面だけでなく、「心のバリアフリー」の取組を推進する必要があります。そのため、その支援についても明記されています。本市でも本年九月に開催される、ラグビーワールドカップ2019では、世界最高峰の舞台を迎えるにあたり、「四年に一度じゃない。一生に一度だ。」を合言葉に、物心ともに充実したものになるよう各方面において準備を進めているところです。

そこで大会開催にあたり、多くの外国のお客様をお迎えすることから、人権についても改めて考える契機になるかと思えます。人権課題には、「障害のある人」「高齢者の人権」「外国人の人権」「同和問題」など他にも様々な課題があります。また社会を取り巻く環境の変化から、「女性の人権」や「インターネットによる人権侵害」など、多くの課題の解消が求められています。一生に一度の人権侵害が、一人の人生、地域の人々、国や歴史にまで影響を及ぼしてしまうことがあることを、私たちはもう一度改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

本市では、人が人としてお互いに尊重し合い、すべての人々の人権が認められる、明るく住みよい地域社会を、一人ひとりの努力によって実現することが大切だと考えています。そこで「人権尊重都市」を宣言し、思いやりのある心豊かな人権尊重社会の実現を目指しています。

東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ日本大会では、競技者・スタッフ・観戦者などは、様々な人たちの協力なしには成り立ちません。観客席で自分の隣に座っている多種多様な人々と喜びや感動を分かち合えたとしたら、とても素晴らしいことだと思います。これからも、私たちにできることから、思いやりのある心豊かな人権尊重のまちづくりをしていきたいと思います。

《降り立てば ミストが迎える 熊谷市》



### 大麻生郷の譲り状 から見えるもの

大麻生公民館

増田 洋

(利用者)

大麻生地区は新規荒川扇状地上にあり「扇の要部分にあたる。昔からこの地区は荒川の氾濫が繰り返され、運ばれた土砂により肥沃な土地を形成した。この附近からとれる米を「石原米」といい、美味し」と評判である。

このような肥沃な土地を鎌倉・室町時代の一時期、渋川氏が所領していた。それを裏付ける譲り状等を次に掲げる。  
一、平氏女譲り状

賀上家文書『埼玉県史料叢書十一』

むさしの国おほあさうの郷、ひたちの国おほくしの郷、たちまの国おほたのしやう下のほうの下方ならニひあかはなのむらことの、御ゆつりにまかせて手継もんそくして三郎二ゆつりわす、たゝしこののけうやうのために申をきて候事、

### 「おやつには 涼しさを呼ぶ 夏野菜」

さをおいなくさたさせ可有候、  
ゑいにん四年八月十八日  
ありはん

この譲り状は、永仁四年（一二九六）八月十八日

大麻生郷等を平氏女（北条時広の女子で渋川義春の妻すなわち貞頼の母）が三郎（貞頼）に譲渡するという

内容の譲り状。

二、正中元年（一二三四）十月廿一日大麻生郷等を渋川貞頼に安堵する將軍家政所下文に、外題安堵が書き加えられる。

三、正中元年（一二三四）四月二十九日大麻生郷等を

渋川貞頼が同義季に譲られた譲り状。

四、観応三年（一二五二）六月廿九日大麻生郷等を

渋川直頼が金王丸に譲られた譲り状。

『出典：熊谷市史資料編2 古代・中世本編平成二十五年発行 熊谷市』

以上の譲り状等（但し、二から四まで原文略す）から

当時の大麻生郷の状況は、  
一、大麻生郷は鎌倉時代から室町時代にかけて渋川氏の所領であった時期がある。

二、永仁四年の譲り状から、

当時女子が大麻生郷を所領していた。

三、永仁四年及び正中元年の譲り状から、二代続いて譲渡されている。

大麻生郷は鎌倉・室町時代の一時期、有力武士渋川氏が所領していた事実が判り、古くから重要な地域であった。

大麻生地区はこれからも歴史に学び、発展を続けて行くことだろう。

### 自然を育み

### 自然を楽しむ

江南公民館長

野本 澄子

江南地区は昭和三十年に、御正村と小原村が合併し、江南村が誕生しました。その後昭和六十年に町制が施行され江南町となり、平成十九年には熊谷市と合併し、現在十二年が経過したところです。

荒川の南に位置し比企丘陵の入り口になっており、小高い丘や林、池、川が点在し、「里山風景」が広がる自然に恵まれた地域です。

しかし、近年農林業を支える人口の減少等により遊休農地や荒廃林が増加し、里山の荒

廃は著しいものがみられます。

そんな中、自治会を中心に「自分達の手で美しい自然を取り戻そう」と、平成二十一年スタートの「熊谷市市民協働・熊谷の力」事業に応募し

採用となり、荒廃林を整備し桜を植える「小江川千本桜事業」に着手しました。

植樹はより多くの人達に関心を持ってもらうため、一本二千五百円の「里親制度」とし、プレートには「誕生記念」

「結婚記念」など人生の節目の記念樹として、思い思いのネーミングを付けていただいています。毎年桜の成長と併

せ、それぞれの思い出に浸りながらお花見を兼ねたハイキングを楽しまれています。事業スタートから十年を経

過した今、植樹された桜はすでに千本を越え十二キロにも及ぶ桜のコースとなっています。植樹はまだまだ継続されており、将来は荒川堤に並ぶ熊谷の名所となることを目指しています。

一方、自然の整備が進みますとホタルも住み始めました。「ホタルを保護する会」が発足し、現在百余名の会員により山林の下刈りや用水の清掃

が行なわれ、ホタルの餌であるカワニナが生息出来る環境が整い「ホタルが飛び交う里」が実現しました。

五月下旬から六月中旬の夜には、江南行政センター北側のホタル坂通りから江南総合文化会館ピビアの駐車場に入ると「ホタル案内所」が設置され、鑑賞に訪れた方々をご案内しています。

現在地区内七カ所が「熊谷市ホタルの保護に関する条例」に基づく保護重点区域に指定されています。

富岡市長が「江南は熊谷の軽井沢」と表現されたこともあり、住民の自然保護への意欲に拍車がかかり、これまでの事業の継続そして新たな事業への取り組みが期待されるところです。



里山ウォーク

# 学級講座紹介

## 日本伝統文化の

### 生け花との向き合い方

#### 箱田公民館長

##### 河西 昌美

箱田公民館は「館」がないので、箱田高齢者児童ふれあいセンターを借用して生け花教室を毎月一回水曜日の午後開催しています。受講生が十四名と少ないのが課題です。過去には二十数名の受講生がいましたが、少しずつ減員となつて現在に至っています。

新たな受講生の募集も年度当初の受付はもちろん、年間を通して随時受付としましたが、応募者はほとんどありませんでした。そこで皆で勧誘してみようと、知り合いや友人に呼びかけてみました。しかし、その結果は散々たるものでした。

その理由は「生け花」と聞く

と、「着物を着て和室で花をいける」イメージを強く持つ方が多い事。その上、高価な

水盤や鉢、筒、壺などの花器を揃えるのが大変。第一、花を飾る床の間がないなどが主な理由でした。

確かに昔は大きな床の間に豪華な花瓶、背景には掛け軸など絢爛な生け花を飾る事がありました。今は四季折々の美しい花を見るだけでなく、時には枯れた枝や苔などを用いて自然の姿を表現する様になりました。更に花を生ける技術や知識だけでなく、草木の命を見つめ、触れあふ事により、自然の恵みへの感謝の心をはぐくむ様になりました。

従つて「生け花を飾る処はイコール床の間」という考え方にもう少し弾力性を持たせる必要があると考えています。たとえば、家族が集うリビング、お客様を迎える玄関、あるいは洗面所やトイレ等、家の中には飾る所はたくさんあるはず。また、花器にしても、家にあるお皿、コップ、お茶碗、ワイングラスなど工夫すればいっぱいあります。そして、花も自宅の庭や

道端、原っぱなどに咲く色々な花を使つてみたらどうでしょう。要は気軽に楽しめる生け花にしたいと考えています。

とはいつても最低限の生け花の基本を知る事は大切です。その基本を知つた上で、今度は自分自身の自由な発想で好きな様にアレンジして生け花を楽しむ・そんな生け花教室を目指していきたいと考えています。

「誰でも気楽に参加したくなる公民館活動をめざして」

#### 男沼公民館長

##### 内田 章

男沼地区は真面目で働き者の多い特性があります。そこで、誰でも気楽に参加でき、楽しみながら活動することを通して交流を深めるとともに、趣味や教養を高められるように講座内容を工夫しています。

高齢者教室では、健康や防災、防犯について研修しました。健康体操や振り込め詐欺について、体験を交えて研修することで、身に付いた知識

を得ることができました。

女性教室は年末の「フラワールアレンジメント」や三月に「春のガーデニング」を実施しました。正月の玄関や居間を飾る鉢植え、花の季節を先取りした大鉢の花々は、日常生活に色をもたらした家族の気分を明るくしました。

共通講座として「絵手紙」「写真」「押し花」「寄せ植え」「地元野菜のおいしい食べ方」等の教室を開きました。

その他の行事として「ナイターグラウンド・ゴルフ」「ソフトボール大会」「親睦ゴルフ大会」「バス研修(りんご狩り)」、地域の「公民館まつり」「さくらまつり」などを行いました。

りんご狩りには四十一名が参加し、バスは満員となりました。最初の訪問先吉祥寺は「花の寺」とも言われる禅寺で、秋の紅葉以外にも季節折々楽しむことができます。宝物殿には川場全域の貴重な文化財が展示され、地域の力の入れように驚かされました。昼食をとった通称「SLホテル」の景観や歴史は印象的でした。



そば打ち教室

「そば打ち」は講師の方々の懇切丁寧な指導を頂き、思い

のほかおいしいものができました。試食会は笑顔あふれる和やかな食卓となりました。

りんごの選別を皆で楽しむことができました。

今後より多くの方々が増加したくなる講座を工夫していきたいと思ひます。

## 《エコカーも 使いすぎれば 火の車》

# 日本画家・大野百樹氏の軌跡

熊谷市立熊谷図書館学芸員 大井教寛

秩父・吉田町出身で、熊谷市にお住みの日本画家・大野百樹氏が2019年3月1日に亡くなった。98歳だった。

大野先生は高等小学校を卒業後、足利で着尺図案を描く住み込み奉公され、顔料で絵を描くことを学ばれた。そして川端画学校洋画部で油彩画家としてスタートされた。

その後東京美術学校に勤めながら藤島武二の個人授業を受け画業を研鑽したが、東京大空襲で自身の作品が全焼してしまう。失意のうちに秩父吉田へ帰る途上、乗り換えのため熊谷駅で降り、まだ湧水を水源としていた頃の星川の流

れの中に、川底からふつふつと湧き出る湧水を見て、もう一度画家として出発し、いつの日か熊谷へ居を移そうと思っ

たという。昭和22年に日本画家へ転向し、日本美術院の小谷津任年、

常々「一番大切なのは作品のもとになる写生で、心で見、心に描きながら写生する。字のとおり、生きた姿を写す。感動の強いもの、秘められた美しさを正直に描く。美しさとの出会いは素直な心で、己が心を捧げる。」と話す。また「美しい自然と出合い、「私に貴方を描かせて下さい」と祈る。このとき己が心は、すがすがしく生きてくる。自然美の中に生まれたありがたさ、そして絵を描く楽しさがある。」とも話す。さらに日本美術院新年会の席で横山大観から「へたなら、おやり。」

「絵は下手でよい。上手に描こうとするから、つまらない絵になる。」との指導を受け「上手に描こうとする気持ちを捨てれば気が楽になり、心のこもった絵となる。」と話

この「絵を描く心」が先生の原点であり、その感動、感謝が作品に投影されている。そして文字通りコツコツと、一筆一

筆に心をこめて作品制作に打ち込んだ。この絵画対象への感謝、絵を描くことへの感謝は、支えとなったご家族への感謝と通じるものがあつたと思う。

こうした画業のかたわらで、地域の文化芸術への大きな貢献も果たされた。熊谷市文化連合、熊谷市美術展覧会、県北美術展などの企画・発案を行い、運営事務方としても尽力された。熊谷市勤労者文化展の作品目録や八木橋百貨店の毎年のカレンダーを彩るための作品提供や、宮沢賢治

作品を研究する「賢治の会」などへの協力も惜しまず、地域の文化振興のための活動も幅広く行われた。

先生は画業をまとめた年譜を制作されており、それには

この「絵を描く心」が先生の原点であり、その感動、感謝が作品に投影されている。そして文字通りコツコツと、一筆一



大野百樹氏



「谷川岳」 1986年

秋の院展への出品予定作品が100歳の分まで書かれていた。それだけ絵画制作への意欲と情熱を傾けていた。ついに100歳までの作品を拝見することができなくなってしまうことが、熊谷市の文化芸術の水準を引き上げた先生の業績は、今もなお燦然と光り輝いている。

### 編集後記

令和最初の市公連だよりの発行になります。退任された役員の皆様のお世話になりました。とうとうお世話を承りました。新連合会会長を初め新館長に就任された方々や関係の皆様にご協力頂き、各公民館の活動や取組を紹介する事ができました。有用な市公連だより二十七号を発行できました事に感謝申し上げます。